

こんにちは せいてつ 病院です

特集

肝硬変・肝がん治療の進歩

- こんにちは探検隊
島田乳腺・外科クリニック
- Zoom upがん医療は今
がん診療支援相談室
- わたしたちのあらたな思い
地域医療連携のミッション
地域連携のリーダーに聞く
- こんにちは体験ルポ
入退院受付 密着24時間
- 医療をささえる看護のちから
16病棟
- なるほど！なっ得！薬の話
副作用とは？
- 看護体験 密着取材

理念 安心・安全

患者さんの安心・安全
職員の安心・安全
病院の安心・安全

基本方針

患者さんの人権を尊重し
インフォームド・コンセントを大切に
安心して任せられる医療とサービスを提供します

地域との連携を大切に かかりつけ医との協力のもと
24時間信頼される診療体制を充実させます

最新・最良の医療水準をめざして研修・教育に努め
チーム医療の推進を図ります



肝硬変・肝がん治療の進歩

肝臓疾患の終着駅は肝硬変と肝がんです。

しかし、今では予防だけでなく、肝硬変や肝がんになった人でも適切な治療ができれば長生きができるようになりました。

進化した治療について、梶原 英二 副院長にインタビューしてみました。



特集 肝硬変・肝がん治療の進歩

副院長／肝臓内科部長 梶原 英二
〈専門〉肝臓

日本内科学会認定医・指導医
日本肝臓学会専門医・指導医
日本消化器病学会専門医・指導医

肝硬変と肝がん(肝細胞がん)とは？

肝硬変は、種々の原因によって生じた慢性肝炎(一般的に6か月以上肝炎が続く場合)が持続し、肝細胞の破壊と再生が繰り返り起こることで線維が増加した結果、肝臓の本来の構造が壊れて結節が形成され、肝臓が小さく硬くなる病気です。

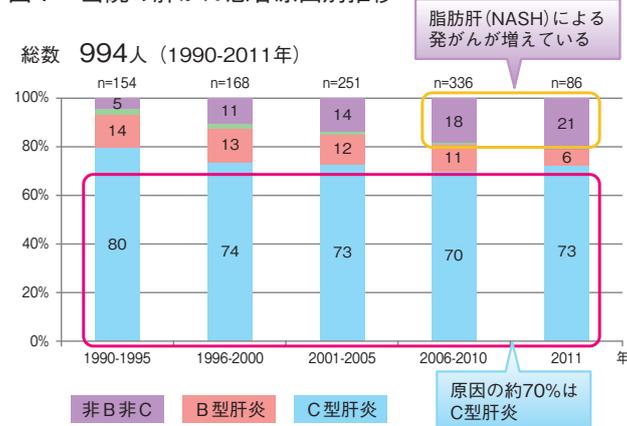
肝がん(肝細胞がん)とは、肝臓の中の肝細胞由来のがんのことです。

肝がんの原因は？

－肝炎ウイルス以外の肝がんが増加

日本における肝がん発生原因の約80%が、B型肝炎ウイルスやC型肝炎ウイルスに長期にわたって感染し、炎症が持続することによるものと考えられています。近年肝炎ウイルス以外が原因の肝がんが増加しており、その原因としてアルコール性肝硬変や非アルコール性脂肪肝炎(NASH)などがあります。特に生活習慣病である糖尿病、肥満が原因でおこるNASHからの肝がんが増加しています。(図1)

図1 当院の肝がん患者原因別推移



肝細胞がんを診断するための検査は？

血液検査ではB型肝炎ウイルス(HBs抗原、HBV-DNA)、C型肝炎ウイルス(HCV抗体、HCV RNA)の有無、肝障害の状態(AST、ALT、アルブミ

ン、総ビリルビン、血小板数、プロトロンビン時間)、腫瘍マーカー(AFPや PIVKA-II)を調べます。

画像診断検査には、簡単に行える腹部超音波(腹部エコー)と、造影剤を用いて行う腹部CT、MRIなどがあります。血液検査が正常でも肝がんが存在することがありますので、画像診断検査は早期の肝がんを診断するためには必須です。肝硬変では3-4ヶ月毎に画像診断検査を行うことが推奨されています。

肝細胞がんの治療には どのようなものがありますか？

内科的治療と外科的治療があります。がんの数と大きさ、他の臓器への転移の有無、肝障害の状態を見てどちらかを選択します。外科的治療とは、肝がんを切除する手術のことです。内科的治療にはラジオ波焼灼療法(超音波装置で観察しながら肝がん部に針を刺し、熱を通した針でがんを完全に焼いてしまう治療で、径2-3cm以下のがんに適応)、経カテーテル的肝動脈塞栓療法(肝細胞がんに行く血管にカテーテルという細い管を挿入し、塞栓物質を使って血管を詰めて、がんに血液が行かないようにする治療)、他に進行した肝がんに対してリザーブ留置による抗がん剤動注化学療法や経口薬である分子標的治療薬などがあります。

肝がんの予防法は どのようなものがありますか？

C型肝炎ウイルスに感染している人は、インターフェロン治療によりウイルスを排除することで肝炎の進行や発がんを抑止することができます。現在では70-80%の確率でウイルスを排除できます。ウイルス

が排除できない人でも、少量のインターフェロン治療、肝庇護薬(強力ネオミノファーゲンC®、ウルソ®)や瀉血療法などで発がんを抑制できます。

B型肝炎ウイルスに感染し、ALTが31 IU/l以上、HBV-DNA高値の人には核酸アナログ製剤やインターフェロンなどの抗ウイルス薬が用いられます。体内からウイルスを排除することはできませんが、肝炎の活動性を低下させることができます。

肥満や糖尿病の人でALTが高値であれば、非アルコール性脂肪肝炎(NASH)でないかを調べる必要があります。NASHから肝硬変や肝がんへの進展を予防するには、肥満の是正や糖尿病のコントロールが重要です。

もし肝がんになったら？

肝がんは再発が非常に多いがんです。そのため早く見つけて早く治療することが重要です。最近では、再発予防の治療が進歩し、10年以上生存している人が増えています(図2,3)。

定期的な検査を受けましょう

現在肝障害(ALT異常)がある人はもちろんですが、ALTが正常でも過去に肝炎があった人、例えばC型肝炎でインターフェロン治療によりウイルスが排除された人から肝がんが出現することも稀ではありません。

定期的な検査を受けるよう心がけてください。

肝炎や肝がんの治療薬の開発は、近年めざましいものがあります。今後研究が発展し、さらに肝がんの予後も改善していくでしょう。

図2 C型肝炎がんの生存率の改善

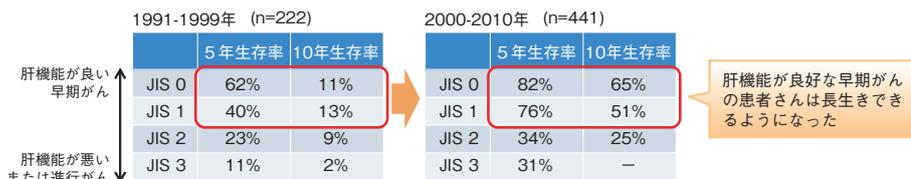


図3 B型肝炎がんの生存率の改善



インタビュー 看護部 矢成 優佳

島田乳腺・外科クリニック

Shimada Breast & Surgery Clinic



院長 島田 和生 先生

閑静な町並みの一角にある八幡東区の島田乳腺外科クリニックは、昭和14年に八幡東区中央町で開業され、70年以上の歴史があります。平成19年、荒生田への移転を機に、二代目の島田次郎先生の外科・整形外科に加え、三代目の島田和生先生が、新たに乳腺専門として診療を開始されました。島田次郎先生は、製鉄記念八幡病院の横にある日開神社の隣にあった病院宿舎で誕生されており、当院ともゆかりがあるそうです。クリニックでの診療に加え、当院においても登録医として、当院外科医と共同で手術もこなされ、地域医療に貢献されている島田和生院長先生にお話を伺いました。

Q：先生のコピーをお聞かせください

A：「患者さんの立場に立った心の通う診察をすることです。病気の治療はもちろん大切ですが、患者さんのそれぞれの思いや事情も踏まえて、心のサポートまでしっかりできるよう努力するというのが目標です。検診の人も、乳がんの人も、安心して来ていただけるようなクリニックをめざしています。」

Q：当院へのメッセージをお願いします

A：画像検査や病理検査では、迅速かつ正確なレポートが返ってくるのでとても助かります。また、私の患者さんを手術させていただき、外科・麻酔科・手術室そして外来や病棟のスタッフの方には感謝しています。最後に製鉄記念八幡病院の地域医療・情報センターの対応は、私が知る限りベストだと思います。

Q：貴院の特色を教えてください

A：乳がん検診と治療が大きな柱で、患者さんがストレスなく受診できるような体制を整えており、経験豊富で人に優しい女性スタッフが集まっています。乳腺外科と外科・整形外科のエリアは別々にしてあり、乳腺の更衣室やマンモグラフィ検査、診察室への移動はプライバシーにも配慮しています。



女性専用の乳腺待合室



外科・整形外科待合室



外科・整形外科 島田 次郎 先生と「一緒に写真ってなかったよね」



ピンクリボン自動販売機 売上金の一部は日本対がん協会へ寄付される

島田乳腺・外科クリニック

八幡東区荒生田2-3-8
TEL093-651-1529 FAX093-651-0529

診療時間

	月	火	水	木	金	土	日
9:00~12:30	○	○	○ <small>乳腺科特設</small>	○	○	○	△
13:30~18:00	○	○	○ <small>手術日</small>	○	○	△	△

取材当日、「製鉄病院で手術をしてきました」との一声でお迎えいただきました。院内に入ると、まず素敵なコンシノヒロコさんの作品が目を惹きます。ホテルのロビーのように綺麗で落ち着いた空間でした。性別を意識しないで患者さんと向き合うという姿勢に、私たちも緊張が解けました。自然な感じでお話しをお伺いでき、すべてに安心を感じられる取材でした。



今回の探検隊

医療相談室 医事部
清國 睦美 秋吉 裕美

がん診療支援相談室

がんと向き合い、病を持ちながら、
充実した豊かな人生を生きることを支える

当院では、がんに関するあらゆるご相談をお受けする窓口として、
医療相談室に「がん診療支援相談室」を設置しています。



「がんと診断されて…」

- ・ これからのことが不安、心配
- ・ 治療や副作用について知りたい
- ・ 費用はいくらかかるの？
- ・ 退院後の生活、仕事はどうなるの？
- ・ 緩和ケアって何？
- ・ 自宅療養するうえで必要な準備は何？
- ・ 不安な気持ちを聞いて欲しい



治療を行っている患者さんやご家族は、生活をしていくうえで、さまざまな不安や悩みを抱えておられるのではないのでしょうか？

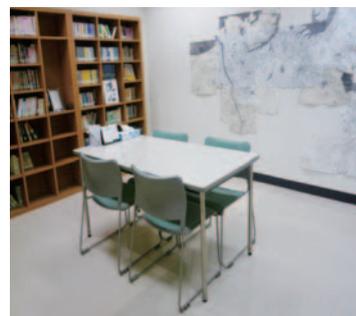
製鉄記念八幡病院では、がんに関する不安や悩みに対応し、より良い療養生活になるよう医療相談室に「がん診療支援相談室」を設置しています。がんに関する治療にともなう生活上の問題、心配ごとや医療費、緩和ケアについての相談に対して、入院または外来で治療を受けている方だけでなく、広く一般の方にもご利用いただけます。



(後列左より) MSW 児玉 明香、MSW 岩本 雅代、MSW 中島 光輝
(前列左より) MSW 清國 睦美、医療相談室長 城後 やよい、
退院調整看護師 河野 久美子

医療ソーシャルワーカー(MSW)が、まずお話を伺い、ご相談の内容に応じて、各分野の専門スタッフや地域の医療機関、相談窓口に連携をとります。そして、一緒に考えながら、問題解決につながるようにお手伝いをいたします。

がんに関する不安や悩み、知りたいことなどお気軽にご相談ください。



利用方法

- 医療相談室でのご相談
事前にご連絡をいただければ
お待たせすることはありません。
- 電話でのご相談 TEL 093-671-9345

受付時間

平日 9:00~17:00

地域医療連携のミッション

地域連携のリーダーに聞く



地域医療連携室

「連携なくして医療なし」の時代 一步進んだ地域医療・情報センターをめざして

北九州市は高齢化率が高いものの、人口に対する病床数が多く、急性期医療は充実しています。

「地域医療・情報センター」では地域完結型医療をめざし、地域のかかりつけ医からの紹介や、自宅や回復期病院への退院調整を行っています。救急時には迅速に対応し、お断りをしない医療体制の充実に努めています。

患者さんや地域の医療機関の方々が満足され、高い評価を得られる病院であるために努力をしています。

地域医療・情報センター副センター長
／地域医療連携室長 城後 やよい

信頼関係の構築こそが医療連携の要

「地域医療連携室」が開設されて、11年が経ちました。直接患者さんと接する機会が少ない部署ですが、スムーズな受診のために当院と地域医療機関との架け橋となるべく、開設時より努めてきました。

わたしたちの仕事の基本は、人と人とのつながりであり“思いやり”だと思います。つねに「前向きな姿勢」で、患者さんと院内外の医療スタッフの

ニーズに迅速に対応することを心がけ、信頼関係の構築に努めていきたいと思っています。

地域医療連携室 植田 こずえ

医療と福祉の円滑な調整をめざします

患者さんに自分らしい生活を送っていただくためには、リハビリテーション病院や療養型病院、また在宅医との連携が不可欠であり、地域全体での支援が大変重要となっています。入院や退院に伴う病气や生活、通院に関する不安や悩みが生じた場合などにも、適切な支援や情報提供を迅速に行っているよう努めています。

医療相談室MSW 清國 睦美

退院後も安心できる在宅療養を継続するために

退院後も在宅療養をしなければならない患者さんがいらっしゃいます。不安を抱え自宅に戻る患者さんや、ご家族の声に耳を傾け、地域の医療機関や在宅サービス機関とも連携し、退院支援に取り組んでいます。退院後も安心して在宅療養が継続できるようにサポートしています。

医療相談室 退院調整看護師 河野 久美子

入退院受付 密着24時間



病棟玄関を入ると右手に入退院受付があります。
入院の申込みから退院時の会計まで、また、時間内・時間外、夜間・休日の急患対応など24時間動いている、受付の顔を紹介します。

●9:00
会計は9時から17時までです



●10:00
ピーク時も
笑顔で対応します



●7:00
スタッフ交代時刻です

●どのような症状か
お尋ねします



●救急車の到着です



女性スタッフ

- ・入院申込受付と入院中患者さんへの請求書の配布
- ・お見舞いの方のご案内
- ・救急患者さんおよびご家族の方への対応と受付
- ・院内警備

●13:00
日中の急患も対応します



●23:00
急患の電話が入りました



●15:00
交代時引き継ぎを行います



●22:00
スタッフ交代時刻です

●21:00
24時間警備の方がいるので
安心です



今回の体験隊

放射線部
中園 裕一郎
医事部
田辺 浩子



当院では、毎日30-50人程度の患者さんが入院・退院されているとのこと
です。受付に訪れる多くの患者さんに対し、笑顔と丁寧な説明をモットー
に、手際よい対応が印象的です。夜間等の少人数での勤務においては、つ
ねに緊張感を保つよう心がけているそうです。24時間365日休むことな
く動き続ける入退院受付は、不安でいっぱい患者さんにとって非常に安
心できる存在となっています。

16病棟

専門性を発揮し、わかりやすく
信頼される医療・看護をめざします



16病棟は、脳血管内科・循環器内科・形成外科・皮膚科をおもな診療科とする病棟です。本幡加代子師長をはじめ看護師34名、看護補助者4名、クランク1名で構成されるスタッフが、和を大切に協力し合い、患者さんやご家族の方々と心あるかわわりをめざして頑張っています。患者さんの早期回復、異常の早期発見、再発予防にむけて、「いつもとちょっと違う何かに気づく観察力と感性」を大切に考え、よい意味での緊張感をもって業務に取り組んでいます。

脳血管内科では

SCU(脳卒中急性期治療を行う専門病室)を備え、オンコール体制の医師が日夜迅速に対応しています。治療と同時にリハビリテーションが開始され、機能回復に向け頑張っている患者さんが多数いらっしゃいます。



循環器内科では

心臓カテーテル検査が週に2回行われ、心臓の血管に狭窄がないかを検査し、必要な患者さんにPCIという血管内治療やアブレーション(心筋焼灼術)を行っています。また、心臓リハビリテーションにも力を入れ、再発予防に取り組んでいます。



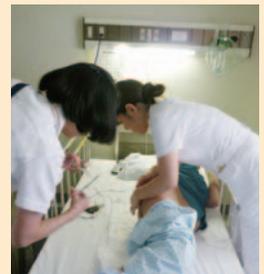
形成外科では

熱傷の患者さんは、ICUで急性期を経過したのちに病棟に移ってきます。痛みを伴う処置に対し、麻酔科の医師の協力のもと、痛みをコントロールしながら治療を行っています。仏壇のろうそくの火によるやけどが増えています。衣服への引火など、ご注意ください。



皮膚科では

带状疱疹や良性腫瘍摘出術のほか、入院された当日に手術を行う患者さんが多いです。とくに带状疱疹の場合は、気づかぬうちに疲労が蓄積し、抵抗力が落ちている患者さんが多く見られます。入院を機会にゆっくりとした時間を過ごしてもらうことが、とても大切です。



どの科の医師も診療科の枠を超え、医師同士の連携が密であることはもちろん、リハビリテーションスタッフや薬剤師、医療ソーシャルワーカー、地域の医療機関との連携も深く「患者さんにとっての最善」に向けチームで取り組んでいます。

私たちスタッフは患者さんと向き合うことで、多くのことを学ばせていただいております。これからも、この繋がりを大切に、自分たちの仕事に誇りを持って、笑顔で頑張っていきたいと思っています。

16病棟
担当薬剤師
より

薬の副作用とは？

薬の副作用とは「医薬品の使用にともなって生じた治療目的に沿わない作用全般」をいいます。副作用は必ず起きるものではありません。しかしながら、ほとんどすべての医薬品で認められており、その発生頻度は0.1%から100%近いものまであります。

副作用は飲みはじめに自覚症状をとまっておこる場合が多いのですが、なかには血液検査やCT、X線などの画像診断によって発見されることもあります。

たとえば市販薬も含め、広く用いられる解熱鎮痛剤による代表的な副作用として消化器症状(胃の不快感など)がよく知られています。長期間内服を続けることによって、胃潰瘍や十二指腸潰瘍にまで悪化することもあります。

また薬が体にあわなければ、じんましんなどの薬疹が出ることもあります。アレルギー体質の方はおこりやすい傾向にあるので注意

が必要です。自覚症状がほとんどないものでは腎機能低下などがあります。これは血液検査で確認することができます。はやめに対処すれば重篤化することはほとんどありません。

ほかの薬や食べもの(グレープフルーツなど)の影響を受けて、副作用の発現率が上がるものもあります。調剤薬局で処方せんと一緒にお薬手帳を渡すと患者さんが現在飲んでいる薬がわかり、薬剤師が薬や食べものなどの飲み合わせに問題がないかを確認することができます。



薬は正しく服用することが重要です。薬局で薬を受け取る時には説明をよく聞き、体調に異常を感じたらすぐにかかりつけの医師や薬剤師に相談するようにしましょう。



16病棟では、循環器内科・脳血管内科など、おもに内科入院患者さんに対して服薬指導を行っています。内科入院患者さんでは、薬を決まった時間に正しい飲み方でしっかり服用することが重要となります。そのため、それぞれの患者さんのライフスタイルに応じた服用方法を提案して説明を行っています。さらに、医師・看護師と協力しながら、安全な治療を行えるよう取り組んでいます。

市原 磨紀

診療科のご紹介

皮膚科



皮膚科医長
豊田 美都
日本皮膚科学会専門医

皮膚科
河野 美己

皮膚科医長 豊田 美都

皮膚科 TEL 093-671-9327

製鉄記念八幡病院皮膚科では、一般皮膚科領域の治療を行っています。入院治療として、おもに蜂窩織炎や帯状疱疹など急性皮膚疾患を中心に、乾癬、天疱瘡などの寛解導入療法、良性腫瘍に対し一泊入院による手術、悪性腫瘍に対し植皮や皮弁術までを行っています。

さらに急性期病院の皮膚科として、他科に入院中の患者さんの皮膚トラブルにも速やかに対応しております。

特殊外来ではレーザー治療を行っており、当院のレーザーは太田母斑・異所性蒙古斑・扁平母斑・外傷性刺青・老人性色素斑などに適応がありますが、診断により保険適応の有無が決まりますのでご相談ください。

エキシマランプ紫外線治療機を導入しており、掌蹠膿疱症・円形脱毛症・白斑・乾癬・手湿疹・皮膚そう痒症と幅広く活用しています。

診療日 (午前)	月	火	水	木	金	土
	●	●	●	●	●	○
						第1・3・5 再診のみ

Topics 第4回「地域医療連携の夕べ」を開催しました

6月19日、北九州ロイヤルホテルにおいて、登録医・連携医療機関の方々との情報交換と今後の連携強化を目的とした「地域医療連携の夕べ」を開催しました。4名の医師による診療の現況報告と、新任医師からのあいさつを行いました。今回は、過去最高の386名の出席があり、盛会のうちに終了しました。



「当院の肝がん治療の現状」
肝臓内科医長 山下 尚毅
肝細胞がんの原因と治療、肝細胞がん生命予後の変遷と予後改善の取り組みについて



「最新の画像診断とその進歩」
放射線科部長 鎌田 宏二
64列CTと3テスラMRIの画像を従来と比較



「消化器内科における診療の現況」
消化器内科部長 中村 滋郎
内視鏡的粘膜下層剥離術(ESD)の紹介と、炎症性腸疾患(潰瘍性大腸炎やクローン病)の最新治療



「眼科 最先端治療」
眼科部長 前野 則子
手術数増加の現状と最新機器での手術の安全性、角膜移植術の取り組み



未来の医療従事者を応援します!

看護体験 密着取材

ふれあい
看護体験
編

5月23日、医療を志す高校生と社会人7名のみなさんが看護体験に来られました。



病院と看護部、医療の現状についての説明



終了証書の授与

感想文より

今日一日看護体験をして、看護師は本当に大変なんだなあと思いました。ずっと歩き回っていて、一度も座りませんでした。足がぱんぱんです。

でも看護師は人のために色々なことをして、そして患者さんにいつも「ありがとう」と言ってもらえて、どんな仕事よりもやりがいがあると思います。ステキな仕事です! 今日、製鉄記念八幡病院に来て、本当によかったです。

一日
看護体験
編

8月7日、地元の高校4校から、看護の仕事に興味を持つ15名の生徒さんが看護体験に来られました。



石東病院長より「一日看護師」辞令交付



グループに分かれて病棟看護体験



福井副学校長より看護専門学校の紹介

ぬいぐるみのお腹の中に内臓が!



終了後のひとことあいさつでは、「小さい頃は製鉄病院に入院してお世話になっていました。今回はお世話する側の体験をさせていただき、看護師をめざそうと思いました」とのうれしいコメントをいただきました。

10月10-11日は、地元中学生の職業体験を予定しています。

「患者さんの権利」と「患者さんへのお願い」

患者さんには「ご自身が生命(いのち)の主人公」として「守られていること」「守っていただきたいこと」があります。

「患者さんの権利」

1. だれもが、人としての尊厳を尊重され、良質で安全な医療を公平に受ける権利があります。
2. 病気、検査、治療方法・内容、経過など、患者さんが理解できる言葉や方法を用いて、納得できるまで、十分な説明・情報提供を受ける権利があります。
3. 十分な説明・情報提供を受けた上で、治療方法などの医療行為は自らの意思で選択、拒否できる権利があります。
4. 医療行為の選択にあたっては他院を含め他の医師の意見(セカンド・オピニオン)を聞くことや、医療機関を自由に選択する権利があります。
5. ご自身の診療記録の開示を求める権利があります。
6. 診療で得られた個人情報の秘密が守られ、プライバシーが保護される権利があります。

「患者さんへのお願い」

1. ご自身の健康に関する全ての情報を正確にお伝えいただくとともに、誤認などの防止のために姓名・誕生日等の確認作業にご協力ください。
2. ご自身の医療への主体的な参加をお願いします。検査や治療などでわからないことがありましたら、十分理解できるまで質問し、納得の上で受けてください。
3. すべての患者さんが快適な環境で適切な医療を受けられるように、病院内のルールや医療者からの注意・指導事項を守り、他の患者さんのご迷惑にならないようご協力ください。
4. 当院は、臨床研修指定病院でもあります。研修医、医学生、看護学生などの研修・実習へのご理解とご協力をお願いします。

最善の結果を求めて医療者とともに取り組むことにご協力をお願いします。

コミュニケーションラウンジ あなたのご意見より

☑ 血圧測定器の椅子をもう少し高いものに変えて欲しい。座高が低いので、座ったままでは手が入らない。



Ⓐ 高さが調節できる椅子に変更しました。ご意見ありがとうございました。

☑ 朝の受付で、25分並び、足が痛くなった。

Ⓐ 行列ができる内科、外科受付前に朝の10時まで、長椅子を置くようにしました。



8月24日現在1344人分 ご協力ありがとうございます

6月 鳴水市民センター・高槻市民センター
7月 患者さん
8月 八幡大蔵病院

診療科目

内科	肝臓内科	消化器内科	循環器内科	糖尿病内科	腎臓内科
心療内科	脳血管内科	呼吸器内科	小児科	外科	消化器外科
呼吸器外科	血管外科	脳神経外科	整形外科	リウマチ科	形成外科
産婦人科	皮膚科	泌尿器科	眼科	耳鼻咽喉科	緩和ケア外科
病理診断科	放射線科	麻酔科			

専門外来

内科	神経内科／血液外来／甲状腺外来／ 膠原病外来／ペースメーカー外来／ 腹膜透析外来／禁煙外来	呼吸器内科	SAS外来(睡眠時無呼吸症候群)	整形外科	リウマチ外来
心療内科	カウンセリング／自律訓練外来	小児科	小児循環器／小児神経／ 小児腎臓／小児肥満／	放射線科	放射線治療外来
		外科	ペインクリニック	緩和ケア	緩和ケア外来
				女性診療外来	乳腺外来

休診日:日曜、祝日、第2・4土曜日

■ 予約センター: **093-671-5489**

■ 夜間休日急患受付: **093-672-3111**

全科予約制

予約受付時間 8:00~16:00
当日予約は10:30まで

編集後記

今年度より編集委員になりました。わたしたちの病院について、たくさん情報を盛り込んでいます。安心して医療を受けていただくために、できる限り分かりやすくお伝えできるよう心がけていきます。看護部 矢成 優佳

こんにちは
せいてつ
病院です

発行日:2012年10月1日
発行部数:4000部

社会医療法人 製鉄記念八幡病院
〒805-8508北九州市八幡東区春の町1丁目1-1
TEL 093-672-3176
http://www.ns.yawata-mhp.or.jp
編集・発行責任者: 病院長 石束 隆男

●広報誌へのご意見はこちらまで info@ns.yawata-mhp.or.jp
●地域医療連携のお問い合わせ TEL093-671-9700

デザイン編集・印刷:よしみ工業株式会社 表紙イラスト:かわぐち たまよ